Ⅵ　緊急時の対応

アナフィラキシーは非常に短時間のうちに重篤な状態に至ることがあります。**教職員の誰が発見者になった場合でも適切な対応がとれるように全員が情報を共有し、常に準備をしておく必要があります。**

１　緊急時の対応モデル

☆異変に気づく

◆大声で応援を呼ぶ。患者から離れない。
◆安静にし、動かさない。目を離さない。

発見者（及び応援にかけつけた養護教諭などの教職員）

周囲の安全の確認

反応があるか？

あり

①状態の把握
- 症状・経過の把握
- 学校生活管理指導表の確認
- 食物アレルギー症状チェックシートによる確認

症状は急激に変化することがあり、５分ごとに注意深く観察する。最低１時間は目を離さない。

②応急処置
- 学校生活管理指導表の指示に基づいて行う。
- 食物アレルギー症状チェックシートに基づいて行う。

エピペン®の注射　など

なし

- **エピペン®の注射**
- **１１９番通報**
- **ＡＥＤの準備**

一次救命処置
- 気道確保

自発呼吸がない場合
- 胸骨圧迫
- 人工呼吸
- ＡＥＤ実施

連絡

応援

校長・教頭等

1　対応者への指示
2　周囲の教職員への指示
3　エピペン®の注射または介助
4　必要に応じて主治医等への相談指示　など

指示

周囲の教職員
（応援にかけつけた教職員）

1　エピペン®や内服薬の準備
2　学校生活管理指導表の確認
3　食物アレルギー症状チェックシートの記録
4　エピペン®の注射または介助
5　救急車の要請
6　保護者への連絡
7　周囲の児童生徒の管理
8　救急隊の誘導　など

救急車要請の目安
- アナフィラキシーの兆候が見られる場合
- 学校生活管理指導表で指示がある場合
- エピペン®を使用した場合
- 主治医、学校医等または保護者から要請がある場合　など

救急隊へ